

[005]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7343134>

出版情報：ポリモルフィア. 5, 2020-03-03. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



2019年度 企画広報環境整備部門活動報告

伊藤裕之

九州大学男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門長
大学院芸術工学研究院教授

企画広報環境整備部門では、企画広報と子育て支援などの環境整備を担当しており、担当領域が広範にわたるため、部門内でワーキンググループ（以下、WG）を構成し、課題解決を図っている。2016年より①企画広報WG、②環境整備WG、③広報誌ポリモルフィア編集委員会の3つのWGにわかれて活動をしているが、今年度は育児・保育WGのメンバーが9月に開催された「第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 福岡」の実行委員会のメンバーとしても活動を行った。

1. 企画広報WG

企画広報WGは、毎年年度末に発行しているニュースレターの編集を担当している。今年度は第19号を2020年3月末に1万7千部発行予定であり、学内の教職員全員、新入生全員に配布する。冒頭の特集である部局長インタビューは、2014年3月発行の第13号からこれまで6名の部局長の記事を掲載しており、今年度は久枝良雄工学研究院長のインタビューを掲載した。その他にも今年度採択されたダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（先端型）の活動紹介をは

じめ当室の活動の紹介と情報提供を行っている。

また、ワーク・ライフバランスに関する教職員および学生の意識啓発として、11月にワークライフ・バランスセミナー&霜月ランチ会「ワークスタイルイノベーション～働き方改革～」を開催し、NPO法人ファザーリングジャパン九州のファウンダー、(株)OZ Companyの小津智一氏にご講演いただいた。FDについては、10月に馬出地区にて4部局合同FDが開催された。九州大学男女共同参画推進室の上瀧恵里子教授から「九州大学における男女共同参画推進の取組～ワーク・ライフバランス改革を中心に」と題して取組みが紹介された。また、4部局の教員からワーク・ライフバランスについての体験談等が紹介され、病児保育やベビーシッター利用についての意見交換も行われた。

その他の広報活動では、リーフレット、活動報告書などの冊子の配布を行っているほか、HP上ではイベントの開催、活動報告、部局の取組み紹介等の情報発信を継続して行っている。

2. 環境整備WG

「ベビーシッター派遣事業」を今年度も継続し

ている。12月31日の時点で、今年度の利用者は6名、チケットの発行枚数は231枚である。また、今年度も大学入試センター試験業務に従事する教職員を対象に、伊都キャンパスで一時保育を実施し、教職員3名の子どものべ7名の託児を行う予定である。

昨年度から継続して検討課題であった在宅勤務制度については、男女共同参画推進室からの要望を受け、人事部において来年度からの導入を目指して検討を行っている。

また、ベビーシッター派遣事業に加え、学会参加等に伴う出張等により子どもの保育ができない場合のベビーシッター等を利用する際の経費について、経費の交付元が支出を認める場合は、寄附金を使用可能とする取り扱いを定めていたが、寄附金以外の外部資金で使用を認めるものが増加してきている実態に合わせ、使用可能な経費を寄附金以外の外部資金まで拡大する改正を行った。

3. 広報誌『ポリモルフィア』編集委員会

ポリモルフィア創刊号を2016年3月に公開し、今年度は2020年3月に第5号を公開予定である。この広報誌の編集にあたっては、部門内に編集委員会を設け、掲載記事の検討、簡易査読等を行っている。今年度は、学内外から6編の寄稿が寄せられた。特集記事では、2019年9月に実施した「第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin福岡」の抄録として、東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長の上野千鶴子氏の基調講演および九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク参加機関11大学の理事・副学長に

よるパネルディスカッションを掲載した。

4. その他

その他の部門の活動として以下が挙げられる。

1) 学外への情報発信

福岡市中央区笹丘校区女性協議会（9/26（木））、南区大楠校区男女共同参画協議（11/11（月））、南区玉川校区男女共同参画協議会（11/12（火））、南区野多目・塩原校区男女共同参画協議会（12/3（火））が館外研修として、伊都キャンパスを訪問した。ビッグオレンジにて、伊都キャンパス紹介のDVDを視聴、専任教員による本学の男女共同参画の取り組み紹介のあと、椎木講堂等をはじめ伊都キャンパスを見学した。

2) 九州沖縄アイランド女性研究者支援ネットワークに係る活動

前述の「第11回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin福岡」では上野千鶴子氏を基調講演者に招き、玉田薫副理事が座長を務めた。また後半のパネルディスカッションでは、内藤敏也理事がパネリストとして登壇し、各大学の理事・副学長と活発な発表、意見交換を行った。このシンポジウムは、男女共同参画推進室3部門から実行委員会のメンバーを構成し、開催に向けて十分な準備を行った。当日は、一般市民や高校生を含め500名以上の参加があり、回収されたアンケートでは多くの感想が寄せられた。また、このシンポジウムは、上野千鶴子氏の講演を、部局長を対象としたトップセミナーと兼ねて開催した。

3) 定例ランチ会の開催

隔月で定例ランチ会を開催している。2019年4月から11月までに、5月「デートDVについて」、7月は本学のハラスメント相談室の方にお話しいただき「知っておこう！キャンパスハラスメント」、9月「育児シッター利用について」、11月はワークライフ・バランスセミナー&霜月ランチ会として「ワークスタイルイノベーション「働き方改革は生き方改革」」を開催した。また、1月は本学のインクルージョン支援室の方にお話しいただく予定にしており、3月はリーダーシップをテーマにした企画を検討中である。

2019年度 学生教育等部門活動報告

野々村淑子

九州大学男女共同参画推進室 学生教育等部門長
大学院人間環境学研究院 教授

学生教育等部門における主な活動と今後の課題

1. 「ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム」

2010年度から始まった本プログラムは、2019年度も継続して実施され、10年目の節目を迎えた。4月から6月に学内掲示および九大ホームページにて募集を行った結果、学部生、修士課程、博士課程に在籍する計11名の学生から応募があった。提出された研究計画を学生教育等部門の室員全員で審査を行い、9名が採択された。採択された学生の所属は、人間環境学府が3名、地球統合科学府が1名、芸術工学府が2名、歯学府が1名、法学部が1名、21世紀プログラムが1名である。2020年2月20日には研究助成を受けた学生による報告会を開催し、今年度中に報告書を発行する予定である。

2. 学内外への情報発信

8月に、伊都キャンパス男女共同参画推進多目的スペースに於いてオープンキャンパス企画「将

来の夢に向かって！～キャリアデザインってどんなこと？」を出展した。高校生は男女を問わず1、2年生が参加し、浪人生や保護者をはじめ来場者数は約40名となった。

10月に開催されたアカデミックフェスティバルでは、伊都キャンパス椎木講堂において、「九大女子卒業生に聞く！キャリア懇談会&交流会 Open Cafe 2019」を出展した。Open Cafeは、毎年ロールモデルとして九大卒のOGの方にご講演いただいております、今年で7回目の開催となった。県内外から小学生、中学生、高校生、一般の方、ならびに本学の教職員、大学院生、学部生、卒業生等50人を超える参加があり、幅広い層の方にお集まりいただきました。今年度は、有限会社薬師丸代表取締役の才所洋子さん（薬学部卒）と日本航空福岡地区販売部販売第2グループの増村恵奈さん（生物資源環境科学府卒）のお二人から、これまでのキャリアや現在のお仕事等についてお話があった。才所さんには様々なキャリアを経て起業され、地域に密着した薬局を運営されていること、また、増村さんには、宗像市役所から出向という形で日本航空に勤務されており、異なる職場でのご経験等興味深いお話があった。後半では、パネルディスカッションと質疑応答、交流会が行われ、

進路の選び方、学生時代の過ごし方等和やかな雰囲気で見えが交わされた。

伊都キャンパスに移転後、2回目のオープンキャンパスおよびアカデミックフェスティバルの開催であったが、来年度の出展方法等について今後部門で検討予定である。

3. 学内におけるジェンダー関連授業の開講

主に学部下級生を対象として2015年度から開講している「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」に関する講義は、男女共同参画推進室上瀧恵里子教授および武内真美子准教授、小川真理子准教授の3名が担当し2019年度も通年で実施した。各期では「キャリア開発論」「人的資源管理論」「男女共同参画の観点から」「労働とリスクの観点から」の4テーマで講義が行われた。「キャリアデザインⅢ―男女共同参画の観点から―」では、公開講義として就職を考える大学生向け講演会「リーダーシップ―人材育成―」を開催した。講師に株式会社岩田屋三越リビング・趣味・ソリューション営業部シニアマネージャーの曾根ゆかり氏をお迎えした。参加した学生一人一人が「仕事をする」ということはどういう事なのかを考えるヒントとして、講師ご自身の経験、働く環境の変化、未来の視点からお話いただいた。

オムニバス形式で実施している「女性学・男性学Ⅰ」「女性学・男性学Ⅱ」の講義も総合科目として、各分野の先生方にご協力いただき、ジェンダーの視点から講義を行っていただいた。また「女性学・男性学Ⅱ」では、日本航空株式会社前副会長・現特別理事の大川順子氏をお招きし、公開講義「JAL女性エグゼクティブが語る 女性であること

と仕事」を開催した。講演会には、女性学・男性学Ⅱの受講者をはじめ、一般申込みで参加した教職員、大学院生・学部生等約200名の参加者があった。

4. 大学院生を対象とする啓発・研究活動支援

今年度も2019年12月に、主に女子大学院生を対象として毎年実施しているTOEICセミナーを九州大学伊都キャンパス、センター2号館で開催した。大学院生、学部生、研究員、教員の参加があった。参加者は講師と英語で積極的に会話を交わし、活発な質疑応答が行われた。

2019年度 女性研究者支援部門活動報告

石田栄美

九州大学男女共同参画推進室 女性研究者支援部門長
附属図書館 准教授

女性研究者支援部門では、女性研究者の研究力向上、活躍可視化、増加策と上位職への登用に関する企画等の全般を担当している。本年度は2019年12月現在以下の取組みを実施し、また年度末に向け実施予定である。

1. 女性研究者の研究力向上

(1) 研究力向上セミナー

九州大学研究大学強化促進事業との共催で、例年英語論文執筆講座を実施している。今年は2年ぶりに「科学英語論文プレゼンテーション集中講座～ポイントで学ぶ英語口頭発表の心得」を11月15日（金）に開催した。講師には今回も理化学研究所創発物性科学研究センター小野義正氏を迎え、42人の参加があった。口頭発表やポスター発表の際のそれぞれの注意点などを整理して説明いただいた。アンケートからも非常に具体例が多くわかりやすいと好評であり、次年度以降も継続予定である。

(2) 女性研究者エンカレッジメントセミナー

女性研究者の活躍促進、ステップアップにつながる企画として、今年度は研究者のキャリアアッ

プにつながるアドバイスを頂くセミナーを2月に開催予定である。昨年度は1月に本学名誉教授の山田 淳氏を講師に迎え、「ラボの運営に携わる女性研究者の皆様へ 私のマネージメント経験談」と題して開催し、講演後の意見交換でも参加者との間で活発な質疑応答がなされた。

(3) 出産・育児復帰者支援（研究活動基礎支援制度の一環として実施）

本支援は、優れた女性研究者が出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう研究費を支援するもので、2015年から文部科学省の補助事業採択を機に開始し、現在は本学経費で継続している。本年度は16人の女性研究者（准教授1、助教9、学術研究員等6）に支援を行っている。

(4) 研究補助者雇用支援（研究活動基礎支援制度の一環として実施）

九州大学では出産・育児や介護などのライフイベント、あるいは社会貢献等により多忙な女性研究者を対象に研究補助者雇用経費支援（短期）〔最大41万円／半年〕を行っている。本年度は春期13人、秋期22人に支援をしている。本部門は

その審査や支援内容の見直しについて協力している。一方、2016年度開始のシングルファーザー支援に関しては、2018年度から支援対象を父子家庭から「配偶者（妻）と別世帯で、当該子どもと同居する者」まで広げている。

また「教授または准教授として本学に着任後、出産した女性教員」を対象とした研究補助者雇用支援（教授・准教授育児期支援）〔最大200万円／年、2年連続〕は、2014年の開始以降、現在までに4人の女性准教授が支援を受けている。

2. 女性研究者の活躍可視化

(1) 若手女性研究者・女子大学院生の表彰制度

優秀な女性研究者育成のため「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を昨年度創設し、第2回目となる本年も若手女性研究者部門、女子大学院生部門と多くの推薦があった。選考委員会の審査を経て、両部門から人文・社会科学系、理工学系、生命科学系の3分野から1人ずつ計6人の候補者が選ばれ、その中から両部門とも最優秀賞1人、優秀賞2人ずつの受賞が決定した。10月19日に開催されたアカデミックフェスティバルにて久保総長より表彰状ならびに副賞が授与された。

なお、在任中に本賞の創設に尽力され、その後も基金への支援など多大な貢献を頂いた、本学元理事・副学長、元名誉教授の故伊藤早苗氏の御功績に敬意を表し、本賞の呼称を「九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）」とすることになった。

(2) 女性研究者シンポジウムの開催

本学の女性研究者の分野を越えた研究交流を推

進し、活躍を学内外にアピールするため、3月に「第3回 女性研究者ダイバーシティシンポジウム」を開催する予定である。

昨年は3月18日に第2回シンポジウムを開催し、基調講演にはシンガポール国立大学のChua Lay-Lay 准教授を迎え、自身の分野や研究内容に加え、現在世界の大学ランキングで上位にあるシンガポール国立大学の優れた取組みを紹介頂いた。学内の研究者による研究発表は全分野を対象に口頭発表6件、ポスター発表35件があった。全て英語による運営を行い、学外からの参加者を含め60人以上の教職員、大学院生が参加し、互いの研究内容・活躍に刺激され、参加研究者が大いにエンカレッジされる機会となった。

(3) 男女別論文業績分析

昨年度までにエルゼビア社の論文分析ツールSciValを活用して本学IR室の協力のもと実施した男女別及び職位別の論文業績分析には学外からも反響があり、8月に開催された内閣府の会議(科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合)において紹介された。また、昨年の第5回 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称:澤柳記念賞）に続き、日本科学技術振興機構（JST）が本年度創設した「輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン・アシダ賞）」を本学が受賞した。

3. 女性研究者の増加策、及び上位職への登用促進

(1) トップセミナーの開催

女性の上位職登用へ向けた大学及び部局執行部

への意識改革を主たる目的とするダイバーシティ推進トップセミナーは今年で5回目となる。9月20日に本学で開催された第11回九州・沖縄女性研究者支援シンポジウムin 福岡における東京大学名誉教授上野千鶴子氏の基調講演を本トップセミナーとして開催した。「男女共同参画は学問を変えるか?」と題した講演では、労働環境の現状や課題について歴史的背景を踏まえて講演され、「差別均衡」システムが「平等均衡」システムになかなか移行しないことに言及された。参加者アンケートでも講師の指摘に同感する意見が見られ、啓発される効果の大きいセミナーとなった。

(2) 女性活躍総合評価

各部署における学生及び職階毎の女性比率をグラフに表し、学生と教員の比率の差などをわかり易く可視化した「女性活躍総合評価」については昨年に引き続き、2019年度のデータを基に分析を行い、年度内に各部署へ公表する予定である。

(3) ダイバーシティ スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)

九州大学は2019年度文部科学省補助事業「ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択され、女性並びに若手教員が、世界トップレベルの研究教育力を実践的に身につけることで、世界と伍して戦える真に実力のあるダイバーシティ・スーパーグローバル教員となることを目的とする教員育成研修(SENTAN-Q)を開始した。この研修により6年間の事業期間に研修を受けた女性および若手研究者50人が研修終了後に1段階昇任することを目指す。

(4) 配偶者帯同雇用制度

2017年創設された配偶者帯同雇用制度は2018年度に対象となる第1号が誕生した。男女共同参画推進室では引き続き広報に協力するため、同制度をホームページで紹介し、学内外のアウトリーチ活動においても積極的に紹介している。本学の教員公募の際には、制度を周知する文言を公募文案に記載するよう呼びかけている。

URL：<http://danjyo.kyushu-u.ac.jp/notice/view.php?cId=2600&>

4. その他の活動

2009年から10年間実施し、優れた女性教員増加に大きく寄与した「女性枠設定による教員採用・養成システム」については、最終的に応募者837人から50人を採用し(採択率6%)、採用された女性教員の論文業績が平均して高いことがデータとして示され、女性研究者に対する無意識のバイアスの払拭に貢献した。その先導的取り組みと成果が認められ、第1回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュンアシダ賞)の受賞に繋がった。

2016年度に創設した「九州大学女性研究者活躍促進プロジェクト」基金は、九州大学基金の用途特定プロジェクトとして、寄附を受け付けている。本基金を財源とし「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を運営している。

2019年度 女性研究者支援部門活動報告

石田栄美

九州大学男女共同参画推進室 女性研究者支援部門長
附属図書館 准教授

女性研究者支援部門では、女性研究者の研究力向上、活躍可視化、増加策と上位職への登用に関する企画等の全般を担当している。本年度は2019年12月現在以下の取組みを実施し、また年度末に向け実施予定である。

1. 女性研究者の研究力向上

(1) 研究力向上セミナー

九州大学研究大学強化促進事業との共催で、例年英語論文執筆講座を実施している。今年は2年ぶりに「科学英語論文プレゼンテーション集中講座～ポイントで学ぶ英語口頭発表の心得」を11月15日（金）に開催した。講師には今回も理化学研究所創発物性科学研究センター小野義正氏を迎え、42人の参加があった。口頭発表やポスター発表の際のそれぞれの注意点などを整理して説明いただいた。アンケートからも非常に具体例が多くわかりやすいと好評であり、次年度以降も継続予定である。

(2) 女性研究者エンカレッジメントセミナー

女性研究者の活躍促進、ステップアップにつながる企画として、今年度は研究者のキャリアアッ

プにつながるアドバイスを頂くセミナーを2月に開催予定である。昨年度は1月に本学名誉教授の山田 淳氏を講師に迎え、「ラボの運営に携わる女性研究者の皆様へ 私のマネージメント経験談」と題して開催し、講演後の意見交換でも参加者との間で活発な質疑応答がなされた。

(3) 出産・育児復帰者支援（研究活動基礎支援制度の一環として実施）

本支援は、優れた女性研究者が出産・育児による研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう研究費を支援するもので、2015年から文部科学省の補助事業採択を機に開始し、現在は本学経費で継続している。本年度は16人の女性研究者（准教授1、助教9、学術研究員等6）に支援を行っている。

(4) 研究補助者雇用支援（研究活動基礎支援制度の一環として実施）

九州大学では出産・育児や介護などのライフイベント、あるいは社会貢献等により多忙な女性研究者を対象に研究補助者雇用経費支援（短期）〔最大41万円／半年〕を行っている。本年度は春期13人、秋期22人に支援をしている。本部門は

その審査や支援内容の見直しについて協力している。一方、2016年度開始のシングルファーザー支援に関しては、2018年度から支援対象を父子家庭から「配偶者（妻）と別世帯で、当該子どもと同居する者」まで広げている。

また「教授または准教授として本学に着任後、出産した女性教員」を対象とした研究補助者雇用支援（教授・准教授育児期支援）〔最大200万円／年、2年連続〕は、2014年の開始以降、現在までに4人の女性准教授が支援を受けている。

2. 女性研究者の活躍可視化

(1) 若手女性研究者・女子大学院生の表彰制度

優秀な女性研究者育成のため「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を昨年度創設し、第2回目となる本年も若手女性研究者部門、女子大学院生部門と多くの推薦があった。選考委員会の審査を経て、両部門から人文・社会科学系、理工学系、生命科学系の3分野から1人ずつ計6人の候補者が選ばれ、その中から両部門とも最優秀賞1人、優秀賞2人ずつの受賞が決定した。10月19日に開催されたアカデミックフェスティバルにて久保総長より表彰状ならびに副賞が授与された。

なお、在任中に本賞の創設に尽力され、その後も基金への支援など多大な貢献を頂いた、本学元理事・副学長、元名誉教授の故伊藤早苗氏の御功績に敬意を表し、本賞の呼称を「九州大学女性優秀研究者賞（伊藤早苗賞）」とすることになった。

(2) 女性研究者シンポジウムの開催

本学の女性研究者の分野を越えた研究交流を推

進し、活躍を学内外にアピールするため、3月に「第3回 女性研究者ダイバーシティシンポジウム」を開催する予定である。

昨年は3月18日に第2回シンポジウムを開催し、基調講演にはシンガポール国立大学のChua Lay-Lay 准教授を迎え、自身の分野や研究内容に加え、現在世界の大学ランキングで上位にあるシンガポール国立大学の優れた取組みを紹介頂いた。学内の研究者による研究発表は全分野を対象に口頭発表6件、ポスター発表35件があった。全て英語による運営を行い、学外からの参加者を含め60人以上の教職員、大学院生が参加し、互いの研究内容・活躍に刺激され、参加研究者が大いにエンカレッジされる機会となった。

(3) 男女別論文業績分析

昨年度までにエルゼビア社の論文分析ツールSciValを活用して本学IR室の協力のもと実施した男女別及び職位別の論文業績分析には学外からも反響があり、8月に開催された内閣府の会議(科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合)において紹介された。また、昨年の第5回 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（通称:澤柳記念賞）に続き、日本科学技術振興機構（JST）が本年度創設した「輝く女性研究者活躍推進賞（ジュン・アシダ賞）」を本学が受賞した。

3. 女性研究者の増加策、及び上位職への登用促進

(1) トップセミナーの開催

女性の上位職登用へ向けた大学及び部局執行部

への意識改革を主たる目的とするダイバーシティ推進トップセミナーは今年で5回目となる。9月20日に本学で開催された第11回九州・沖縄女性研究者支援シンポジウムin 福岡における東京大学名誉教授上野千鶴子氏の基調講演を本トップセミナーとして開催した。「男女共同参画は学問を変えるか?」と題した講演では、労働環境の現状や課題について歴史的背景を踏まえて講演され、「差別均衡」システムが「平等均衡」システムになかなか移行しないことに言及された。参加者アンケートでも講師の指摘に同感する意見が見られ、啓発される効果の大きいセミナーとなった。

(2) 女性活躍総合評価

各部署における学生及び職階毎の女性比率をグラフに表し、学生と教員の比率の差などをわかり易く可視化した「女性活躍総合評価」については昨年に引き続き、2019年度のデータを基に分析を行い、年度内に各部署へ公表する予定である。

(3) ダイバーシティ スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)

九州大学は2019年度文部科学省補助事業「ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ(先端型)」に採択され、女性並びに若手教員が、世界トップレベルの研究教育力を実践的に身につけることで、世界と伍して戦える真に実力のあるダイバーシティ・スーパーグローバル教員となることを目的とする教員育成研修(SENTAN-Q)を開始した。この研修により6年間の事業期間に研修を受けた女性および若手研究者50人が研修終了後に1段階昇任することを目指す。

(4) 配偶者帯同雇用制度

2017年創設された配偶者帯同雇用制度は2018年度に対象となる第1号が誕生した。男女共同参画推進室では引き続き広報に協力するため、同制度をホームページで紹介し、学内外のアウトリーチ活動においても積極的に紹介している。本学の教員公募の際には、制度を周知する文言を公募文案に記載するよう呼びかけている。

URL：<http://danjyo.kyushu-u.ac.jp/notice/view.php?cId=2600&>

4. その他の活動

2009年から10年間実施し、優れた女性教員増加に大きく寄与した「女性枠設定による教員採用・養成システム」については、最終的に応募者837人から50人を採用し(採択率6%)、採用された女性教員の論文業績が平均して高いことがデータとして示され、女性研究者に対する無意識のバイアスの払拭に貢献した。その先導的取組みと成果が認められ、第1回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュンアシダ賞)の受賞に繋がった。

2016年度に創設した「九州大学女性研究者活躍促進プロジェクト」基金は、九州大学基金の用途特定プロジェクトとして、寄附を受け付けている。本基金を財源とし「九州大学若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞」を運営している。